



きらめく風

すすんで学ぶ子ども 心ゆたかな子ども 体をきたえる子ども

他人のためにつくすこと

旭町小学校長 道山 正史

約4ヶ月ぶりに旭町小学校に戻りました。長いことお休みをいただき本当に申し訳ございませんでした。おかげさまで、右半身は麻痺がありなかなか動きませんが、そしてまだ十分ではないのですが、学校に復帰するまでにはなんとか快復したと考えております。どうぞ今後ともよろしく願いいたします。

この4ヶ月、全部で3つの病院にお世話になりました。その3つ目の病院が一番長くお世話になったのですが、日々考えさせられることがありました。この病院には、20歳代から30歳代の若い職員がたくさん働いていました。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士といった分野の仕事の人たちです。基本的には、この人たちに1日1時間ずつリハビリを受けるのですが、実に明るく、誠実に職務に取り組んでいました。

病院ですから、いろいろな病人がいます。病(やまい)もさまざまですし、年齢も社会背景もさまざまです。中にはわがままだったり、よく周りが分からなかったりする人も当然ですがいます。こういう人たちの相手をするのは大変だろうなと思ったりするわけです。しかし、この若い人たちは優しく辛抱強く声をかけながら、なんとか少しでもリハビリが受けられるように努力をします。少なくとも100人を超える若い人たち全員がこのような仕事ぶりであることに、私はある意味感動すら覚えていました。そして旭町小学校の子供たちが、将来いろいろな職業に就くでしょうが、このような気持ち、心構えで仕事ができるようになってほしいと思いました。

前述の療法士たちのほかに、看護師(今の病院には男性の看護師がたくさんいるということが改めて分かりました。)、介護福祉士、ケアワーカー、医師、医療相談員、薬剤師などたくさんの職種の人たちが、いろいろな理由でこの病院に入院している人たちのために働いていると感じることができ、何度も前向きになれたのでした。

秋が深まり、冬を感じ始める11月。学校では学芸会を行います。またマラソン旬間も行います。勉強も文化的なこと運動的なことにも良い季節だと思います。一人一人が自分自身のため、そして自分以外の人たちのために、いろいろな活動を意識づけて行えるようになると素晴らしい関係がつけられていくと思います。